

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 南丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数)

教科に関する調査(国語、算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に 関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

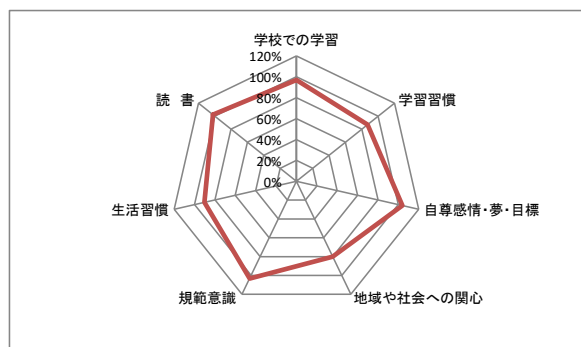
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」の領域についてはよくできていた。「読むこと」の領域においては努力が必要である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題は、全国平均正答率と比べ、高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題や文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題については、全国平均正答率と比べ、低かった。	
算数	全体的な傾向や特徴など	「図形」の領域についてはよくできていた。「変化と関係」「データの活用」については努力が必要である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・速さと道のりをもとに時間を求める式に表す問題は、全国平均正答率と比べ、高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	・データを二次元の表に分類整理する問題や帯グラフで表された複数のデータを比較する問題については、全国平均正答率と比べ、低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・家で自分で計画を立てて勉強をしている割合は、全国平均と同程度であるが、普段(月～金)や土・日の学校の授業以外の勉強時間が少ない傾向にある。

・携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束をしたことを守っている児童の割合が低い。1日当たりのテレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯電話等のゲームも含む)の時間も長く、家庭への啓発が必要である。

・「自分には、よいところがあると思いますか。」の問いに肯定的にとらえている児童の割合が増え、全国と同じくらいになった。「将来の夢や目標を持っていますか。」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」については、全国平均を

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・全校一斉の読書タイム(10分間)を設定し本を読んでいる。読んだ後は「読書記録カード」に題名やおもしろさ等を記入し、読書スタンプラリーに全校で取り組む。

・パワーアップタイム(15分間)を設定し、基礎学力の定着や学力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・「家庭学習チャレンジハンドブック」や「南小倉中学校区家庭学習のすすめ」を活用し、家庭学習の指導・支援を行う。

・自主学習を推進し、自学自習の習慣を身に付けるようにする。